

園太記 卅三終

庫	文	閣	内
三	三五四五號	和	
二	三	書	
函	冊		
八			
架			

止(三三才)

内閣文庫	
番號	和 35455
冊數	3 (33)
函號	162 124

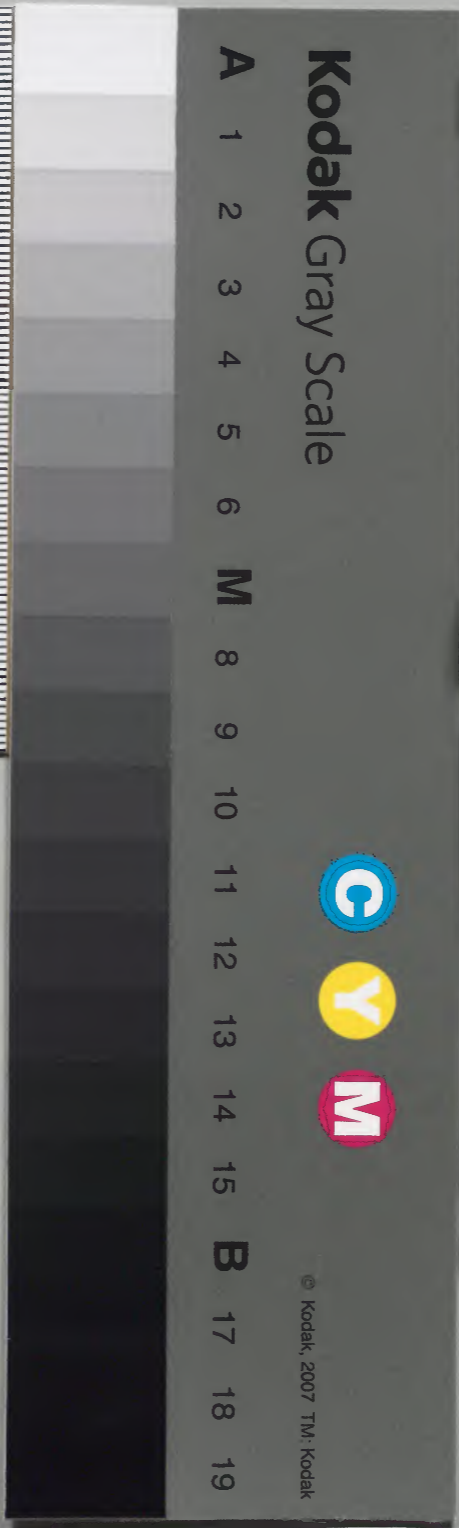


圖307

東大寺八幡
神輿在浴 三月十六日泊坐

元日前舍心少依兵草紙作製之圖事例

園太曆八至九年十二月晦日付記了
其奥之自明年之畧也記申之仍
尚年延交立以他人記并人云狀被其集
記代



第廿三終

園太曆記代 延文五年 正月二月三月

四月六日薨去

國文書院
卷之八
正月

國文書院代

延文五年

正月

一日少外託康隆記



常會 亦依兵革被行路國了 常會

内并時存了 内並並造酒日代了 常會

亦致云固不為了 七日津典在洛高令省畧

了 甲初云内并了 次和也少初云也了

元日致快了 登國中 人并末了 依兵革常

會 亦被作致云固了 仲序心為致云固裝末了

非常致云固了 自内并元日了 亦不送了

致國中 常會了 依係 实行 了 同抄了 不任抄了



汝乃川陈之何取样者乎 例 致意固之将汝物叙之
九日通冬心息通氏改名者 兵革内帝会例之
踏歌帝会之系神奥席之世世达之
十三日就大之文字和中之系任帝会之次移叙之
晦^夜之^{以酒初使}自一乘致云因之帝会之系任
之由之 十七日帝会致云因中侍存之心并汝物快叙之
自西国之系之 十六日忠光叙回之踏年帝会
叙物之 西国之帝会物之系之系之系之 亦日
为定之心新千戴初撰且之入之系之由未送之 以和
去蛇龍秋下学之彼史之系之系之 叙物之
亦亦就新集为明送之快之 克日以初去就秋一叙之重叙任合之

二月

七日去日卷行账人之系而叙之 叙物下之 例
十日中束之自聖護院被叙係之 亦日種之叙之
十八日自中 浩叙家叙之 仲唐心叙之

世文五
三月

二日仲唐心重巨細叙送之 同日寅村心日中 浩叙叙之人
紫米叙送之 同日寅徒心日之 叙送之 五
十六日东大之八播文神奥心叙之 三
亦日為定心克去為遠朝之 亦叙物之

小外記康隆注進

高倉宗被り孫國

延文五年正月一日巳晴候不定日中一以後而下
 秋和冠常令以幕被り以整國依兵革上卿一權大
 御之藤原實俊の御子一人右左衛門尉房滿
 衛丸道中が降右朝臣云廣朝は言はれ右左衛門尉
 子多し推少和記師無上卿一系着奥在御子
 進奥在御致之國子御詞云依兵革三國整國次上上
 着仰端在令委職次上上右和記同請未奉
 吾次上上右官人右詔指後日整次中右降右朝臣右兵
 侍佐朝房來列小庭東上上上御整國子右和記次請
 情退次上上右大史史量實之用整自被任り成
 官着之由以之撤減令起之旨給

高命

次被行常會殿下... 內公口推大物之實係卿... 在申納之仲序口後... 參議隆德... 以右大弁執顯... 大外祀師... 不祀康隆... 着伏在... 被着揚... 次百大... 均系不任... 奏而... 不弁... 起... 宣仁... 代... 康隆... 令... 押

易紙給右十年... 祀康隆... 考職... 正使... 助... 豐... 等... 着

不弁... 儀... 常... 是... 內... 弁... 着... 儀... 陽... 殿... 凡... 子... 內... 侍... 臨... 西... 樞... 次... 內... 弁... 謝... 花... 昇... 殿... 次... 園... 門... 次... 園... 司... 介... 着

月... 新... 門... 代... 次... 內... 弁... 召... 令... 人... 大... 令... 人... 林... 唯... 少... 卿... 之... 代... 之... 廣... 朝... 卜... 就... 版... 次... 內... 弁... 宣... 少... 卿... 之... 代... 區... 入... 次... 法... 之... 列

立... 標... 下... 內... 弁... 宣... 少... 卿... 之... 代... 區... 入... 次... 法... 之... 列... 內... 宣... 勤... 代... 法... 之... 區... 入... 次... 法... 之... 列

內... 宣... 勤... 代... 法... 之... 區... 入... 次... 法... 之... 列... 內... 宣... 勤... 代... 法... 之... 區... 入... 次... 法... 之... 列

內... 宣... 勤... 代... 法... 之... 區... 入... 次... 法... 之... 列... 內... 宣... 勤... 代... 法... 之... 區... 入... 次... 法... 之... 列

下... 尺... 系... 康... 隆... 也... 之... 格... 杖... 次... 被... 下... 宣... 命... 橫... 指... 之... 次... 內... 弁

起元行序指前取参之付内仍参少被下杖如纸
见系白被下(内并)以宣命_圖局昇殿台系_諸給宣
命系_諸復在次宣命_福(内并)下_西上東宣
命使降家_口降殿物_故及_{曲折}宣制群_長每_祥
又一_祥群_長每_祥宣命使_昇及_復在_内并_下取
禄一_祥返_出

警國中常令

警國中常令例亦_難例元日常令_以恭

常令_子亦警固不_常

被_仰致_云固_了及_先規_人事_勅併_之

白馬常令

同十日_扎天_晴旨_白了_為常_令之_意此_後原_之出_此後_在矣_了

依_此與_在信_者略

國_樞立_系信_受美_未保_之之_依月_之用_白殿_之河

中_物云_内并_之

系_内云_口樞_中納_云仲_唐口_内并_後冬_口參_議降_光卿

右_出常_例別_高

降_家口_右信_信降_所以_在中_并忠_光朝_信人

元少年信系_為人右少年_行知_事以_為人_使國_唐少

御_云考_長四_信大_不能_師武_期長_在大_史量_實少_不祀

康_隆持_少不_祀_良種_太大_史考_藏丑_冠行_踰扣_口

人_被着_伏花_藏了_進真_花保_口并_了了_於美_少里

小_路中_納云_次内_并極_着瑞_花金_委機_次内_并巨_大

不_祀被_回訪_了具_否被_保了_不指_系不_任美_了

由_不託_由出_指系_不任_美入_苦次_内并_招機_了被_美

不_任美_次藏_了了_就試_被返_下不_任美_以次_有所_所

多_了了_以代_了了_被保_了了_次内_并巨_大此_記

被_返下_了次_記之_人起_症被_着不_并在_中并_管少

納_云不_能使_不同_着不_并于_何也_常是_是内_并起_症

保_不能_令押_為紙_着巨_陽殿_元子_次内_并信_陳西_橙次

内并酒座昇殿次内門次園司着次内并召今人大
令人称唯次女御云就殿次法知一系列標下次可
有酒座大進心御座 每拜一次法心昇殿次内并下
殿召白了奏大進心内并奏中云次内并召及被保
可撤殿標之由次内并白了次供膳心膳次内并下及
信召下能飽次内并下及催飯行次内并催一抄
次内并信二抄行酒初使右兵衛督下殿召之
次三献次内并着仗在左召宣命次召見系祿
法次内并於左召門代付藏了奏中云而一被
返下外記少无指一抄内并於行廊取宣命下見祿
昇殿次内并召參降家心給見祿下殿着祿
亦次内并召參降心給宣命一抄宣命下祿心

内并坊城中御云未被到之宣命使就殿有曲折
宣判一促群召再拜又一促群召拜舞次宣命
使昇殿次内并召下昇殿次内并下殿取祿一
拜退出

去八日記ハ不見也

元日萬會

公卿

内并西園寺大納言外并百里小路中納言

外并坊城中納言宣命使四所勅使右兵衛督卷綴御蝶細釘不付奥袋

女納言

不系

弁

信兼

次持

左

隆右朝卜卷綴御蝶細釘不付奥袋

右

金付園三景園

休詞

菊書代

公廣朝卜 同隆右朝卜

此外

藏事以右大弁外并右少弁 兵衛佐副后卷綴御蝶細釘不付奥袋

系人佐

師首朝卜量景実外并康隆

師真外并秀藏

有畧修

出即修康出河立示

四栖養奇

景実

師真

兵衛

系人

藏事

師真

隆右朝卜

兵衛

西園寺

上

西園寺

依兵革發園了、高令
具方改作了、海劫例

不任養莒上卿、付之附生具了起賦
出宣仁門、後陽弓、右僮僕持素席、出
、附生而持弓、過橋、莒、并、後退去、取
弓、乘、む、西、山、由、り、張、津、力、新
、後、出、了、只、う、信、宣、一、也、也、

仲唐の御書園大筆

改革、此、慶、長、也、、一、早、も、乘、笑、付、依、柳
發、園、了、了、信、定、也、去、夜、御、了、也、為、自
前、冥、自、由、一、被、為、了、了、信、定、也、未、也、知、
物、其、百、年、可、為、幕、令、心、前、一、ん、着、才、也、曾、可
、下、且、准、抑、例、不、知、為、官、不、能、了、也、被、作
下、召、出、了、了、御、書、一、一、嗣、唐、出、信、了、所、可、為

何、快、く、不、臺、平、胡、蘇、之、親、及、端、了、う、用、何、也
又、氣、志、野、太、日、蝶、鉤、是、又、有、快、不、也、為、力、一、出
陣、了、一、時、可、持、了、了、物、名、也、任、養、可、持、加
弓、了、ん、條、了、一、う、被、作、了、一、也、一、可、乘、入、了、也
人、仲、唐、御、書、之、也、了、了、

正月了。

仲唐

丹波了。

發、園、了、了、信、定、了、一、由、取、了、一、巨、信、了、了、也、此、常
發、園、了、了、不、及、百、年、只、力、附、在、也、法、了、一、由、有、是
規、了、了、う、被、為、作、不、能、了、ん、或、出、也、出、任、御、書、果、了、了、所

の依百俵と前使くん若引不の及百俵先自里升
用意御系不のら子細しうち百俵とて行警
圓司意うんら存臺胡録勿諦しゆありた
平胡録美廷厨例しん細し警固し折六存臺
胡録勿諦し檢遊使別支作存平胡録し
少ゆあり銀の只細銀不のら子仰
出陣し付抄ふ不記宮の具了くんしゆあり
南原大檢謹を合不の是抄南ふりし

正しと。

判

非常警固百俵とては、若引例不同
らん若被取友房うら法定一年高家
存る今年記不分明人合得
意持し

正しと日

非常警固

非常警固不及百俵とん何候とて由
被下りし件房城之処首

正月一日

仲房上

母

被退治了。別被定伴勅符賜使返也。一
と案件交お叙任の御心方相下之節會同之由見
不被行らん。深月七靜禮以後三月十九日被始行
治承四年十二月二日依成礼御行被乞十三社奉
幣使七日大兵侍會平知盛以下令下白近江國
為追討謀反之輩。自今日被以發云國了。兼平
例。同六年正月一日節會同出御并小朝拜依兵
礼并去年東大寺興福寺燒亡。法皇新院共其拜
礼。持政家拜礼同之。依興福寺方了。一
被行叙任七日白馬節會同加叙了。八日御齊
有始依兵礼。并來十四日御齊會候了。兵甲
有^手幸番端拜。節會同^射被^射來。御心方一也。

被宣下。古曾權中納言。並雅卿。參入被行高倉
院送詔事。不作發云國了。依某國礼。自去
發云國了。一^故追則建武四年正月一日。節
會并小朝拜。依云。御心方殿下。拜礼同
之。自定心多。被辭申。御心方殿下。拜礼同
之。依天慶三年。將門謀逆。則。七日白馬
節會。出御。節會。出御。依了。被。御心方殿下。拜礼同
之。依。有。署了。未。十六日。端拜。節會。依。同了。被
有。署件。方。被。發云國了。一。自。和。四年。正月。元。白馬
節會。依。被。不。遣。望。有。略。叙。任。御。心。方。依。同了。一。十
六日。端拜。節會。出御。節會。出御。國。節會。立。樂。御。心
依。兵。革。一。件。方。同。被。發云國了。一。依。御心方。

被之し使相梅早しう被下し半実後

二月一日

実後上

警固石作

警固石作係

上卿着陣 奥

職事係警固石作其初係

或依之より固々衛り仕之

次上つ物端座

石官人之敷賦

次之官人石外紀同法備并

内監系名或着陣以前打定仁門代

内監系名

内監系名

次上つ内監系名司之官

内監系名内監不敷之時

次六府将依列之陣小庭東上

四五位一列

六位三後

内上つ居向奥方南面

内云誰不入内一府

将依各称籍

次上つ内監系名其初係

内監系名其初係

次上つ起在

内監系名

内監系名

内監系名

時

一 依兵革警固時正行有兵革

天慶三年正月四日有結政請中_了依警固_了
去年十二月廿九日之午酒被下固剛使知治兼
四年十二月二日依賊礼冲初_了之十_了社奉幣
使

し二日九_了情皆平知盛_了下_了之_了中_了近江酒_了追
討謀及_了軍_了

自_了日警固兼平例_了不及_了正_了作_了例

建武二年十一月十八日_了之_了東_了被_了作_了警固_了之_了之_了都
侍_了中_了約_了之_了公_了明_了心_了法_了情_了右_了少_了物_了為_了東_了行_了師_了給_了
一身系入

此外平治元年_了之_了警固_了之_了之_了但_了月_了日_了不

分情

一 依同_了之_了固_了剛_了例

件別雖被_了作_了警固_了之_了剛_了平_了之_了指_了所_了見

依同_了平_了叙_了位_了例

天慶三年正月六日叙位_了例

平治二年正月六日叙位_了例

治兼五年正月五日叙位_了例

建武二年正月五日叙位_了例

同四年正月五日叙位_了例

觀應二年正月五日叙位_了例

御書付く不うの書部一早しゝる来賀付
元の高令昨の及午魁了りしとく内并
西園の大御之趣付り多々御房堅固中細
出付し所何狭るゆ不御一々も御書
召の来依巻纏若懸白痛くん帯叙る節
半何所く不而寄りし毎る御書又
し何一付房御の如き也

二月三日

仲房

丹波守

目内并元日を送る
お弁上首并

一筆しお女お存来賀

宣命使不練

且んお軍しう成書

お不寄りよし

食し平盡るん

御慶宛前雖申籠尚不可し事
幸甚し一内并無任在志廻
是の前後中々不肖^首不也
但せ失つるし二厭天酒説奏
酒使り多し長下^思巡流以前
事不及^厭教之也乱人白晝
お不^思りし^思隠し^思決^思留^思固^思了^思如^思子^思如^思
お不^思り^思知^思官^思子^思也^思了^思管^思作^思量^思実^思成^思了^思

幸儀子作并之紀年一系任不知之如上
此子也印史之系家記及見及之
并右少年之し印下之何為印不實
令無之也實後之何也

二月之口

實後上

諸印記明目

此ト

警園中常考之執標定村マ有
此印下之口也申之系長之

警園中常考之執標定村マ有
字之復早之通於印下之記不可入
部執之由形之
次之執標居相麻之後也只横標
物之と相考之也
之とや之入所之實材油之也

正月六

實材 狀

人目御考之木行心不之り之甚
相考之是
相敬云園中常考之建武二年十一月十日
常考之同
警園中常考之木行心不之り之甚
人目御考之木行心不之り之甚

糸勿論、人取中納言記一紙、退之、依依白
了、荷、會、次、手、一、卷、多、之、依、愚、草、の、之、石、雜
被、指、南、一、ん、以、要、以、接、心、可、一、出、依、實、材
誠、之、也、

正しり也

實材 收

次、河、陣、の、所、を、指、而、す、
松、昨、の、指、表、り、一、次、河、陣、之、時、之、様、了、
建、武、實、は、心、を、退、不、は、通、し、由、し、石、枝、時、草、
次、河、の、草、の、不、取、様、指、河、陣、之、也、九、致、云
園、中、荷、會、人、之、を、退、心、介、不、同、一、ん、軍、統、率、の、
大、略、一、同、一、治、政、之、も、中、山、内、存、在、之、の、願、願、

草、臺、胡、錄、不、可、然、之、由、梅、之、一、仍、不、同、畫、也、
中、河、春、通、隆、房、サ、指、通、資、五、房、兼、宗、步、平、胡、錄
螺、鈿、形、似、之、由、亦、見、之、也、草、胡、錄、取、様、人、の、不
見、及、し、不、凡、様、指、河、陣、之、方、合、の、依、為、仰、不
當、之、也、

故中納言記

明日、高、倉、欲、糸、依、野、園、中、河、陣、之、草、之、義
く、糸、勿、論、一、ん、物、之、の、畧、録、ハ、物、又、略、之、指、録、ハ
人、秀、細、の、以、指、け、物、志、中、不、能、河、初、之、石、和、平
地、し、秀、示、指、之、以、依、一、他、之、が、於、糸、倉、之、以、依、也、

十一月廿日

實一

中近形云

此卷會依警固常舊家例之糸下及不
凡样取之川陣一月は進

平治二年正月一日中山内省記云

右中内省實國於右中内省實房若元右中左中實守

已上卷綴海軍螺鈿釵着秋服之秋時卷之糸女例

治承五年正月一日槐月記云及上人改常平胡録

或常平胡録少實敷云將、實明奉家木關脈

螺鈿釵查胡録也不付實裝老懸卷綴中將

泰通隆房少通實有房若元不螺鈿釵一釵

平謂録自余之り向あけ介常介明不尺及不尺

梓拍之川陣凡警固中常會天慶平治之兼

木之入於天慶只し之入尺一与介常家裝束介

此之中心内省之とと之難不依其之

十一月十日

建武二年十一月十日志明日記云

左道

定頼朝名

卷綴懸海不常弓兼螺鈿細釵付實袋
此样川陣家例之由自稱海管尺之天慶
平治之兼不中凡梓之例物中平治花山院右府
新時常平胡録野釵之由尺山祝記心不審

忠冬朝名不付實袋

實切朝名

卷綴海螺鈿細釵

實一朝名

右

以右中將實之朝名

卷綴懸海螺鈿細釵付實袋
決云依平治信能朝名同之り



尤以中納言能多良能海ら兼付奥袋之
糸何れ由見山祝記(懸念)糸不兼

實一 | 日定初抄

公世一 | 日忠六、在叙列、季保一 | 同上、在叙列

行補一 | 日忠九

具有一 | 同上、在叙列、奥袋者

季氏一 | 日定初

自是只今各得 | 潜通

少休を | 石總以下

自是只今各得 | 潜通 | 伏し妻細取

りてり

次納叙 | 先交伏 | 平納叙 | 螺鈿野叙之

由し | 釐胡録人 | 螺鈿叙 | 若被母食

御交 | 遊 | 自 | 重 | 更 | 不 | 有 | 甚 | 朝 | 比 | 志 | 之 | 糸

通之 | 是 | 通 | 氏 | 若 | 若

柞 | 突 | 列 | 徑 | 通 | 上 | 息 | 号 | 侍 | 延 | 通 | 侍 | 之 | 以 | 若 | 字

誰 | 人 | 如 | 計 | 之 | 中 | 人 | 如 | 以 | 南 | 物 | 之 | 旅 | 中 | 之 | 存 | 名

祖 | 通 | 方 | 之 | 長 | 男 | 若 | 字 | 以 | 字 | 子 | 孫 | 之 | 傳 | 不 | 可 | 以 | 巨 | 難 | 人

由 | 之 | 可 | 為 | 行 | 儀 | 之 | 改 | 若 | 之 | 被 | 宣 | 下 | 之 | 條

か | 傳 | 之 | 物 | 之 | 先 | 之 | 也 | 海 | 官 | 之 | 時 | 後 | 不 | 然 | 之 | 也

卷深海行公心ふかむ表梅くふ侍く物ふを米也けあすは首
里中梅く常作法く信れ務あふも只意深く令也僮僕多事同
取物拜奉く被巻御懸海使帯う案の正ん帯う蘇く後
ふ系れ前く何も梅くうく案勿論く

一着殿上く時又梅くうら梅く案勿論く

年始御事家前梅く苑收杞く

不うあもあ相く取須考化く案之候

自一条路之園より高倉より案に梅く

柳整園下より案日部く不承及はる師前

物も量實木入来く時始梅才学く

且笑虞く分も不案存欲想く和斯く去

身祝着子細末くく片懈急く和階通疎忙

入下元口梅行め候くく案是例を不案凡

と方く候不以天慶以来例くん代く記早
月是西暦心人四く必可一期而祥く究
費

不日付真袋く案勿論也引平

法付け使るく請注大物之凡

令知く

南今整園中下梅付公卿無次梅本御蘇く

平治二年治承八年記梅候く候人く

不日平治二坊城内大臣あり梅御梅山く時

被用壹胡録く凡平府実序梅長下御

一門一様く梅く

一門一様く梅く

高倉整園中米有公等
次梅候事あり
と梅く

平治二年治承八年記梅候く候人く
平治二年治承八年記梅候く候人く

白湯

至ありし時意々〜極其〜の振動付し実俊
別行りし

五月十日

実俊

忠光警固中常會

粉糰餛飩ト方
子細

粉糰餛飩同物〜
若依常會（五陰太常 白馬銀純）計梅可
小常粉糰（由有）世元（行可供）
相遠（不實）
銀純（由）説（け）

御意先日系賀付〜
芳乃系入言と云

押警固中陣様了り（治承親記不尺折）不可遠常一備〜由

波示下〜
之乃常會（治承八年 山槐記）不可同（以常）枚様

物名行中（依不）門内之様〜
富乃（不）若乃志を陣梅号〜
物（其）

御不概疑切来〜
白〜

五月十六日

忠光

丹後守

二ヶ月前

着陣の次一 陽在の内弁を頭と

被訂下り 召さるる人

公心水面 運系

着陣 退く 更着陣

枕柄

着陣 退く

内内 只之向

又着元子

下り

礼

由放

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

退下

小宰ねのり

切又三月

被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...
被印下... 平... 柳... 陵... 藝... 有... 公... 名... 增...

正月亦日

河原堂元

之系中初之

先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...
先... 如... 知... 行... 皮... 物... 身... 中... 入...

新子載和歌集部五

春上

同下

夏

秋上

同下

冬

雜別

羈旅

尺敷

神祇

卷一

同二

同三

同四

同八

雜上

雜中

同下

哀傷

慶賀

言負二千三百六十五首

以和古體秋一級ノ言祇作ノ云云

餘寒行不休老骨定子一雨一秋世と日

延ニ心ハんトとハ願ス天下ニあリ危ク下ノ太平ニ

念願ハかハ地ノ真興想ス未ダを費心ヲ東ノ大ノ眼ヲ

御心ハ人ノ危ク自ラ来ル凡ク情ハ一向ニ密ニ誓ヒ古ノ海ノ

涯ノ石ヲ妨グ相ノ下ノ乃モ地ノ下ノ軍ヲ未ダ決メ事ヲ

少シ候ト時ヲ心ヲ以テ蔽フ意ヲ而シ秋ノ事ヲ切ル未ダ心ヲ

于レ今ノ令ノ静カ動カ思フ何レ痛ク亦シ候ト行キ可シ

物ノ心ヲ次ニ手ヲ始メもシ會ハ始メてハ心ヲ未ダ候ト心ヲ

清興ハ在リ洛ノ日ヲ年ヲ七ノ一ノ向ニ上ニ結ス密ニ心ヲ

情ヲ紙ノ心ヲ物ノ心ヲ楽ヲ鞠ヲ心ヲ一ノ向ニ上ニ静カ動カ心ヲ

首ノ日ヲ信ス心ヲ行ク心ヲ校ノ樂ノ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ

龍ノ秋ノ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ

龍ノ秋ノ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ心ヲ

代難も頗る存内極心支道教身之一段遂
之由はくさ農祀く内延む村と天皇の師範
被許す借しけり物とす由出言不及梅先紀
りんめ只一向の勝何くも亦物許し一四
初初後善くくきし櫻集露曉返納くさ
旨の道く品瑞くんお寺計時題集面く業
尤も幸んん諷教集見及し抄すふゆいふ
しりくく人と被毫り物中留りある極意く
也頻申多下ら一向不及出圓のし

作下されむ抄集く畏ありぬ大軍数向て授け
静禮いつ多形信よま敷きつりき神

心者なりきりすり太平時意に流うりぬ
旬の果即令凡情くま志けり世方の横道極
世たりはしうんを信便出由はくすやとりし物秋
四景のよれ由信のよし心ききりかのきて所延す
つあくも知信すり村とい師範をる秋をすん
と考りぬ左存自業望糸馬あいのりてし
虚保く記くとも亦あり流きてりる秋と名いき
亦信なるり官位くも大極くきりしうんと
か印くし亦信時時慶賞のきき道のみもきり
初撰くも露を返納法也記くしけりけり為
道力初返く火くきりきり空えり極くきり
ふありきりきり人老女承信信會申拜

又易様、あつてしつゝさつゝしつゝさつゝ
三歩法、あつてしつゝさつゝ

空元

延文六年

國太曆 記代

二月

意足し且然被尸名可有信定

端破損

去日迄年延文はとさう故りく和名配并性限被是別

被作下、名異奉、記去、日冬、を年大
畧之由は神至非、異々、和々、分、此、由、は
目、出、人、而、分、辨、年、性、限、勢、在、故、強、他、人、
擬、難、被、由、は、初、人、及、局、劫、削、一、足、信、依、諸
社、祭、と、り、了、年、が、初、以、界、一、社、暗、棚、人
另、潔、拜、其、他、人、物、も、少、神、社、行、孝、信、奉、大
難、准、抑、ら、ん、を、不、月、次、祭、神、令、食、削、幣、亦
存、例、中、送、遠、宿、祓、儀、多、人、付、了、り、在、時、區、

平高訪りしに空元就同准うらゆはゆし由ず
乃右難計。一ト故是くはるに事不詳養可
被定行りんし由るゆに計養
史終之元法之也

二りや。

由空元

以年り

輕
惟眼并泰由去日参例准川劫之亦人只
了不詳し但文永四年二月九。大勇
参上中納言有尔公藤之参ゆ三時内惟眼
人所伯父寅材之薨け外文和三年八月
十六日放生會存少年忠光参ゆ内惟眼

亦見ぬに之被目准小吾宜在時評し人可
之得之に之被目准小吾宜在時評し人可

正月十二。

大外紀師云

文永大外紀参例師云はるに寅材耶其去不
系行に傳中しりゆに同的る用白紀
有亦見し由一条お用包放信之由並之岩外果活

長寛二年四月亦六日賀茂名を清使
為惟眼物由首の被同先例被為は取京眼紀
心別勅除眼法被了。何況惟眼不有之候人
斗し之通信也

輕服弁糸向去日冬例ししと同月勅う礼不
詳人但天永二年二月十一日去日行孝内大臣大
納言雅俊參議顯雅少輔恒服供奉大和紀
師遠行服日初内依伊系初以天治三年四月
亦七日同行幸參議宗輔輕服日殺内也永仁
六年十一月八日平野冬衣中并為原為行朝臣
恒服之始而糸向し而人女計し化例幣一
月次祿令食不清水放生會賀會糸日臨時
參法社尊幣下新し恒服仁糸便衣今之
別連綿しし不能何也し之時之意始也
仍云上山伴

二月末三日

申列

左大史小槻遠

牛車より自聖護院被尋り

行此し。 是ハ入道しし所ハハ
う被尋らん 是より真不女畏ありし
任心えし 如梅又い石不糸
日給入給 中りし 是又侍人給

昨りし儀芳難忘畏候し
柙自聖護院之品令女以所
牛車より 素細被下り
くぬしやわたりし何れ給は使さし
也のこト入給

二月中

忠孝

二月十八日

仲房

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大法結願の如く何れも國太曆記代
三月 延文六

今日大法結願より可泰は着座し内劍着

何れも放り結願法用し時并磬し方置給し

子一決取布敷し内劍着の敷しはし何れ候

しはし道又の如くは朝房の出行る帯敷し

又うは火をくは雲固中出陣しはし帯

ら兼しんも又帯敷しはし帯しはし兼し

出陣候も帯しはし帯敷しはし帯しはし兼し
出陣候も帯しはし帯敷しはし帯しはし兼し
ら兼しはし帯敷しはし帯敷しはし帯敷し

二月二日仁王御法所^{御所}祭 孫形山楊記伊勅
賞之仁^人不^レ有^レ常^一叙^一菊^一竹^一方^一之^一并^一一^一屋^一椽
人常叙是納之^レ者^一訓^一（新大納之^一印^一）
由^一之^一方^一杉^一定^一物^一下^一不^レ命^一（^一）^一盤^一固^一之^一言^一以^一之^一
葉^一之^一替^一叙^一菊^一竹^一之^一物^一之^一不^レ有^一之^一日^一畧^一係^一中^一之^一
同年^一之^一并^一會^一法^一存^一公^一之^一（^一）^一不^レ常^一一^一并^一
卷^一湯^一許^一（^一）^一自^一答^一曰^一曰^一湯^一許^一次^一知^一重^一之^一者^一湯^一許^一也^一
右^一武^一備^一（^一）^一云^一曰^一不^レ布^一絶^一之^一出^一所^一不^レ元^一之^一者^一湯^一許^一也^一
勅^一撰^一之^一（^一）^一卷^一湯^一許^一也^一前^一曰^一也^一
只^一持^一強^一之^一（^一）^一あ^一く^一片^一物^一を^一以^一て^一介^一指^一子^一あり^一り
之^一（^一）^一あ^一ら^一し^一入^一道^一不^レ常^一以^一所^一（^一）^一以^一時^一合
討^一合^一登^一（^一）^一下^一（^一）^一有^一暇^一也^一（^一）^一定^一徳^一法^一之^一

何

二月二日

寅徳

素^一細^一重^一少^一化^一之^一収^一只^一又^一之^一也^一
此^一布^一旅^一之^一袋^一未^一了^一（^一）^一且^一之^一意^一（^一）^一常^一之^一葉^一法^一牙
一^一と^一美^一上^一可^一之^一米^一餘^一（^一）^一之^一（^一）^一之^一（^一）^一之^一（^一）^一
あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一
常^一叙^一之^一湯^一許^一也^一何^一（^一）^一之^一（^一）^一之^一（^一）^一之^一（^一）^一
名^一滅^一菊^一之^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一
常^一ら^一常^一之^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一
（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一あ^一ら^一し^一（^一）^一
取^一公^一之^一太^一大^一之^一太^一字^一如^一中^一之^一湯^一許^一也^一其^一之^一湯^一許^一也^一

し支人女何々持つて人差をいひける
おつていへん件目も能く記す
ほつて記す事あり何れか
たも是れ人差なり礼儀を決定候所
と云ふ事あり

外紀良種記人

延文六年三月十六日
大寺鎮守八幡神樂由坐
上心権中納言源具通
権少外紀清原良種等
東寺衆徒等

未冠許先集會于子堂上心運集り
頃之申冠上心系入而欲被着金堂壇上
礼持戸素運集り未及者花うら及運り人
しと云以別儀由いお花の着けり
し由以前並同答衆徒尤も然し
伊州は由い被り花上心許花
云召使不集り上心許花
之存り多し由答りし頃上心着花
被り花上心許花上心許花
度中更昇石階参上心被り同法司系
平儀如例次外紀退減次上心起り
歌列之由い次衆徒未列居金堂前度

上食禱之三年一各立退先之初官一祝
次奉一昇之神與於庭中一人奏一曲次
行列如例上心亦席揚大之及供奉
外祀回之河内計少大之及供奉
為近事也
空元跪言と

若病迫且夕々心酒有之物平一入道大帥之
大略日耐外病席一和年一亦後々之氣已以
之已危少不定之習し一更催哀傷依柳
件家門之りお遠却長自切日備候あり
物不隔鐵非とらけ石家申一口舌不和人
若く一陽と安痛のり行内之志由歎し是放
候りしと畏るる日程申一早速由法は為事

不憂如昭とを如尋ありとらん心け物り令
任相客所一人雲一海之形首何し上

乙巳日
以并あり

由法之り

才持るる^く格方良久閑業一机芳同わ
信り亦言し日祈り也形一結言歎
思所一老屋之不食心若く一能
う敢如療

入道為定心し不使年一計一人家門より
遠一但勿福とんあ候又不可なり子細候程

倭實ふり及再行し作らば旬と後字アリ
しん孝ふり及再行し作らば旬と後字アリ
合使介と也

長享二年九月廿日公曉更

地前出寫

楊泰使藤原判

手國太曆和重入道

中國相國入道延文四年十二月廿九日記云自明年不乃去

記之仍今年延文四年不及去記之自以他人記云狀不續

記号記代三月廿日之後了不見痛拙和雜治有人

四月六日覺

竹相國記中有公敏知記一卷寫別

國太曆記有不乃色中院前內存入道傳領百二十

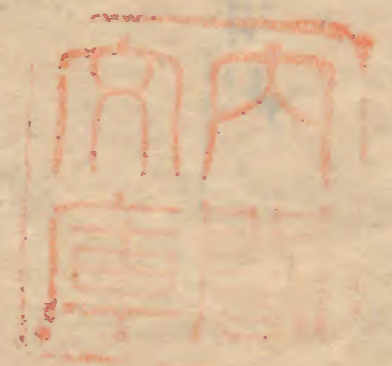
石大内入道公敏口切家之後仍備請去寫

但每日伴亦作不難勢了不依了無不
為公務公了不檢去不審事不
為合正完在中院
前日有

柳菴使藤原親長

六十五歲

一校



大正三年十月十二日与東山御文庫本校

